

第5回 門真市学校適正配置審議会議事録

開催日時 令和元年10月21日（月） 午前10時～午後0時

開催場所 市役所本館2階 大会議室

出席者 横山俊祐、浦嶋敏之、西孝一郎、吉岡眞知子、松崎淳子、村上海織、大田俊二、後藤忠夫、日置芳太郎、上村梨恵、加藤諭、濱崎恵子、国吉孝、上甲尚、明智威久、清水玉美

事務局 邊田副教育長、満永教育部長、西口管理監、三村総括参事、渡辺教育総務課参事、峯松学校教育課長、植原学校教育課参事、東谷教育総務課長補佐、宮崎教育総務課長補佐、前馬教育総務課副参事、向井学校教育課長補佐、永田教育総務課主任、長教育総務課主任

傍聴者 6名

議 事

○開催

事務局

お待たせいたしました。それでは定刻となりましたので、第5回門真市学校適正配置審議会を開催いたします。

皆様おはようございます。本日はご多用にも関わらず、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

本日は、委員16名様お揃いでございますので、門真市附属機関に関する条例の施行に関する門真市教育委員会規則第5条第2項の規定により、会議が成立していることをご報告申し上げます。

会議に先立ちましてご連絡です。後日議事録を作成するため、会議を録音させていただきます。ご発言に際しては、お手元のマイクのボタンを押して発言いただきますようお願い申し上げます。

次に、お手元の資料の確認をさせていただきます。

1点目 会議次第、2点目 資料1：第4回審議会の振り返りと今後の学校づくりの議論のまとめについて、3点目 資料2：門真市の学校の移り変わり、4

点目 資料3：小中学校の変遷、5点目 資料4：小中学校区位置図
となっております。すべてそろっておりますでしょうか。

ここで、事務局より一点ご報告させていただきます。8月1日より文部科学省から副教育長が就任し、事務局に入っておりますので、一言ご挨拶申し上げます。

事務局

おはようございます。8月1日付で着任いたしました邊田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。前職はどちらかというところと研究開発事業の担当でございまして、AI、IoT、ビッグデータといった最先端の技術開発に携わってございました。もともと、入った時には高等教育、大学の設置に関わっており、教育と科学技術それぞれというところがございます。

特段構えていただかなくても結構で、何か密命を帯びたというわけでもありませんので、皆さんが議論いただいたものをもって進めてまいりたいと思っていますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

事務局

副教育長ありがとうございました。

それでは、以降の進行は会長にお願いしたいと思います。

会長よろしくおねがいします。

会長

みなさんおはようございます。この会議も5回目をむかえます。ちょうど中継点を折り返したところかと思いますが、これまで門真の学校のあり方について、いろいろなお立場からお話しいただきました。まず、どのような議論をこれまでしてきたのかという点について、事務局からご報告いただき、そのあとに、これから実際に門真の学校をどう創っていくのか、どう構成していくのかということについて議論を進めていきたいと思っていますのでよろしくお願いいたします。

早速ですが、事務局から資料1、第4回審議会の振り返りと今後の学校づくりの議論のまとめについてご説明をお願いします。

事務局

それでは、資料1につきまして私よりご説明させていただきます。

前のスライドをご覧ください。説明もしながらになりますので、スライドを見てもらい、文字が見にくいなどありましたらお手元にも資料を用意しておりますので、適宜ご参照ください。

第3回までの議論では、「人とのつながりの中で自分の生き方を見つける教育」をめざしていきたいというのが、この会議での一番の核となっております。その中

で、縦のつながり、横のつながり、将来の自分とのつながりという、3つのつながりを軸に進めてきました。

第4回の審議会では、横のつながりにつきまして、学校と地域のつながりをメインに話をしてきましたが、他にももっと横のつながりってあるんじゃないかということで議論が深まりました。

その中で、大きく3点、同級生の子どもどうしのつながりも横のつながりじゃないか。2点目に学校の中だけではない学校の枠を超えたつながり、それから、3点目に地域の中での人と人とのつながり、学校と地域がつながる中で、保護者も含め、地域の人どうしのつながりも横のつながりとして大事な視点ではないか。ということで横のつながりを、少し広げた視点で記載してはどうかという話だったかと思います。

まとめとして3つ挙げておりますが、まず、横のつながりとして、さらに、同級生の子どもどうしのつながり、学校の枠を超えたつながり、地域や保護者の人のつながりという視点も大事。合わせて記載してはどうかということです。

2つ目として、前半の議論のまとめを作成するにあたっては、学校づくりの視点だけではなく、もう少し大きな視点として、教育目標にあたる部分から、手段、手法のとしての学校づくりと、体系付けて整理してはどうかという提案がありました。

3つ目として、第4回の議論を踏まえて修正したものを前半の議論のまとめとしたい。これを、門真のこれからの学校づくりの方向性を考えていく一つの手がかりとして活用していきたいということで、議論を終えましたので、この部分について、これまでの議論のまとめとしてこの後お示しさせていただきます。

もうひとつ大きな話題として、門真市の学校施設の現状を説明いたしました。これまで、池田市のほそごう学園を視察に行くなど、新しい学校についてみてきたわけですが、では門真の現状の学校はどうなっているのかということで、写真やスライドを活用して見ていただきました。

その中で下に3つまとめとして記載しておりますが、皆様の感想として、老朽化が進み、修繕が必要な個所が多くある。特にトイレについては短期的な対応が求められるのではないかと。それだけではなく、学校そのものが昔ながらの造りで主体的、対話的といった新しい教育に適しているのか課題ではないかということでの話もありました。

2つ目として、ハード面として、新しい学習形態に適応した学校、安全・安心に生活できる学校へと変えていかないといけないのではないかと。世の中には、既に様々な新しい学校づくりの事例がある。これらを参考にして、門真としてどういう学校にしたいかが大事である。

3つ目としましては、委員の皆様からは、費用が掛かる話と、厳しい財政状況も意識したご発言をいただいたところですが、この審議会では仕方ないと諦めるのではなく、門真の学校の未来に向けて、前向きに議論をしていきたい。

門真の学校として、短期的に何がいるか、中期的、長期的なビジョンを議論して、できるところからやるということでした。

これらの内容を踏まえ、前回作成した簡単なまとめをバージョンアップしましたのが4ページになります。

大きく7本立てになっています。最初の3つが、人のつながりを意識した学校づくりの視点。縦のつながりとして、「義務教育学校も含めた小中一貫校の視点を積極的に取り入れ、異年齢の関係の中で子どもが育っていくような学校」。横のつながりとして、前回は地域と学校という視点で書いていたところ、少し長くなりますが、「同級生の多様な仲間とともに、人とつながる力を身に付けることができる学校。保護者や地域の人、地域と学校がつながり、地域と共に子どもの学びや成長を見守る学校」ということで、多角的な視点で多様な主体を含めて記載させていただきました。将来の自分とのつながりとして、前回同様「自分の将来の姿をイメージしながら学びをつなげ、自立に向けて育っていくことができる学校」

つぎに、それだけではなく、新たな時代に対応していく学校ということで、3つ記載しています。

まず、めざす教育の軸を踏まえた学校づくりということで、門真が何をめざして進めていくのか、また、全体の底上げにつなげる学校ということです。2つ目に、新しい教育内容に対応した学校づくりということで、新学習指導要領に謳われているような、主体的で対話的な学びといった新しい学習形態に適応した、子どもたちの学ぶ意欲を高める様々な空間や機能のある学校。3つ目に、地域に開かれた学校づくりということで、学校だけで閉じるのではなくて、地域に住まわれる方の知恵や経験を活かせるような、また、学校を拠点に活動ができるような、地域の人が行きかう、地域と共にある学校。

これらが、新しい時代には必要ではないかということで、まとめています。

最後にもう一点、安全・安心というのは言わずもがなではあるけれども、子どもたちが安全・安心に過ごすことは欠かせないだろうということで、話題に上がりましたので、合わせて7つの学校づくりの方向性としてまとめさせていただきました。これは単純に並べただけで、関係性が分かりにくいという意見がありましたので、次の5ページには、これを整理するとどういう位置付けになるのかというのを整理してみました。

門真のこれからの新しい学校づくりの方向性というのはこのようにまとめられるのではないのでしょうか。

まず、人とのつながりの中で学び・育つ学校づくりとして、メインテーマである人と人がつながる学校というところで3つの視点があるのではないかと、もう一方で、新たな時代に対応した学校づくりということで3つの視点がある。この6つの視点を横に並べた時に、それぞれがバラバラに存在しているわけではなくて、「横のつながり」と「地域に開かれた」であったり、「新しい学習形態」と「将来の自分とのつながり」であったり、似て、関連するものもあると考えられます。個々別々に見るのではなく、相互に関連するものとして、矢印を入れています。そして、この中には直接記載されていないが、外せない視点として安全・安心があるだろうということで、安全・安心を基礎の部分である下にこのように入れてみましたが、そうではなくて、これは学校づくり全体を包含する。ただ安全であれば良いということではなくて、子どもたちも、地域の人たちも、上のような環境を創りながら、人間関係や学びの場としてみんなが楽しく過ごせる、みんなが安心して快適に過ごせる学校、そして、前回新しい学校になればワクワクするというご発言もありましたので、快適でワクワクする学校というのを全体として創るというのを、門真市としての安全・安心な学校という位置付けにするのが、これまでの皆さんの議論に資するんじゃないかなということで、全体を包括する形で記載しました。

これらの学校づくりを通じて、将来の自立をめざして、自分の生き方を見つける門真の教育を実現していくことを、前半の議論のまとめとしたいと考えています。

最後に第5回の議論に入るにあたりまして、門真の子どもたちの今後の推計、エリアの情報を少し説明させていただきました。

第4回の審議会での最後の議論を4つまとめています。

1つ目が、人とのつながり、地域と学校との関わり、新しい学習内容への対応、施設の快適化など、これからの門真の新しい学校づくりについて方向性が見えてきたのではないかと。

2つ目にこれらを踏まえて、子どもたちの数の推移、限られた予算の中で、学校の配置や校区の再編、義務教育学校も含めた小中一貫校を新しく創ることも含めて、どのように実現していくかをこのあと議論していくことを確認しました。その中で、3つ目として、人とのつながりを創る、また、地域と共にみんなが学校を創っていく、みんなが子どもたちを見守ることが大事であることを考えると、校区が広がると地域のつながりも広がる。校区の広さは、具体的に議論していく上で、一つの視点になりうるのではないかとのご提案もありました。最後に、学校の統合は一つの考え方ではあるが、地域は学校に対して愛着もあり、地域の拠点ともなっているため、簡単ではないという話もあったかと思えます。

多様なつながりの中で、将来の自立をめざす教育実現できるよう、門真の未来

にとって良い方向に進めていくための議論をしていきたいということだったかと思っておりますので、これらを踏まえて、今日は議論に入っていただきたいと思っております。

私からの説明は以上でございます。

会長

ありがとうございました。タイトルは第4回の議論の振り返りとなっておりますが、第1回目から第4回目まで議論してきたことをよくまとめていただいていると思います。これについて、もう少し付け加えたほうが良いとか、こうしたほうが良いとか、ご意見ございましたらどうぞ自由にお願ひします。いかがでしょうか。感想でも結構です。

委員

非常によくまとまっていて、おっしゃられたように進められたら良いと思います。第4回の議論が重要だと思います。

会長

学校をこれからどのように創っていくのか、基本的なところが大事だと思います。そのところをこの審議会でも議論できたのは非常に良かったんじゃないかと思ひます。他にいかがでしょうか。

委員

廃校になった跡地についてです。他の市町村では、廃校になった校地を地域のコミュニティが活用する例があります。門真では、北小がそのまま残っています。地域の方のグランドゴルフなんかもされていますが、校地をもっと地域と子どもたちの接点とするなど、コミュニティづくりに活かさないかと考えます。門真小校区では、110番の家のスタンプラリーを開催しました。これも子どもと地域のつながりづくりです。

小学生の場合は、顔見知りでないと駆け込みにくいと思うので、子どもの安全という面からも、学校を開放してもらうなど、子どもと地域がそれぞれの顔がわかるようなコミュニティづくりが大切ではないかと思ひます。前回言うべきところでしたが、今回追加で言わせてもらいました。

会長

ありがとうございます。廃校をどう活用するかということも含めて議論していく必要があるということだったかと思ひます。

学校現場の先生方はどうでしょうか。

委員

具体的なデータを見せていただいて、子どもの数もどんどん減っていく、校舎の建築年数も進んでいる、そんないろいろな状況をトータルで考えて、門真としてどうしていくかをこれから考えていかないといけないと思います。

私も市教委に3年間勤めていましたので、財政状況も重々分かっていますが、せっかく門真の教育をこれからどうしていくのかという議論をしていくのであれば、もし新しい学校が可能なのであれば、一つでも二つでも子どもたちが夢を持てるような、門真市全体がいいなと思えるような学校が創れたらいいなと思います。私も門真の小中学校出身ですから、それも含めて思います。

会長

今おっしゃったような夢の持てる学校ということでは、現状いろいろな問題はありますが、それも踏まえつつ、今の学校を考えるということよりも、未来志向でこれからの学校を考えていくような議論が必要だと思います。

それでは、PTAの方どうでしょうか。

委員

前回の振り返りから言いますと、最後の資料、子どもたちが6年後にはこうなりますよという資料がありましたが、6年先で、全学年単学級になる学校が3つあるというのが分かりました。決して単学級がダメということではないですが、やはり子どもの横のつながりを考えた時に、あまりに少ないと子どもの成長に多少の影響が出るんじゃないかと思いますし、統廃合を進めていくことで、横のつながりを広げられる学校の環境を創っていくのが、大事だと思います。

将来を考えた時に、いろんな意味でつながりが大事になってくると思いますので、そういう意味で前向きに進めていくべきなのかなと思っています。

会長

先生方いかがですか。

副会長

今回の前提が、めざす教育と物理的な環境をリンクさせて議論してきたわけですから、改めてこうやってまとめていただいたということは、単純な数の理論だけではなくて、教育のあり方として進めるんだということで、行政当局の方にも覚悟があるんだと理解しています。画にかいた餅に終わってはもったいない

し、皆さん非常に自制的で、財政状況が非常に厳しいのは分かっていますがという発言もありましたけども、副教育長もいらっしゃったので、是非、ここではやはり夢を語ったら良いのではないかと思います。最大の努力をしていただくということを確認して、次の議論をしていくのが良いと思います。

委員

これまで何度か議論したことを、端的にまとめていただいたかなと思っていきます。先ほどから出ている夢の持てる学校について、学校のあり方だけではなく、地域も含めて門真市全体を見て、時間をかけて論議してきたことが、こういった地域づくりの中にある学校づくりとして、非常に分かりやすくまとめていただいたかなと思います。

私の専門から一点だけ、これも確認していることかと思いますが、一番最後に、「人がつながり、みんなが楽しく過ごせる学校づくり。子どもたち、地域の人、みんなが安心して多様な活動ができる学校」と書かれています。私は、生活の場という感じじゃないかなと思います。これまで学校＝勉強の場というイメージが強かったけれども、ここで論議してきて、長時間子どもがそこで生活する、その中で学ぶという意識のもとで、夢の持てる学校づくりという雰囲気であることを願っています。

会長

そういう意味で、安全・安心というキーワードがありますが、これはどこの地域でも当然の話です。安全で安心じゃない学校なんて絶対造らないわけですから、そういう意味で、安全・安心という言葉と、みんなが楽しく過ごせるというのは、ニュアンスが違って受け取られますので、もう安全・安心という言葉を外して、みんなが生活の場として楽しく過ごせる学校という方がいいかもしれませぬ。

勝手に決めるわけにはいきませぬね。皆さんどうでしょうか。安全・安心というのは当たり前ですよね。それを根底に据えるとちょっとレベルを落とすちゃう気がするんですね。安全安心は当たり前で、ハードルにするべきじゃないということで学びも生活もというところでいかがですか。よろしいでしょうか。

委員

激しく賛同します。

それとともに、少し余談ですが、この間京都の学校で、少しこちらの会の話をしたことがあります。

第2回でしたかね。学力が大きな問題になってはいるけど、皆さんは、人のつ

なかりを大事にした教育をしていきたいというのがご意見でした。それが今回のまとめに活かされているんですが、その話をしたんですね。

すると、地域の方も、非常に同感とおっしゃいまして、やはりそうなんだなと思ったんですね。今委員からお話があった、生活を含めてということは、人とのつながりを大事にして門真の教育をしていくんだということともつながっているとしますので、そういう方向でやっていけたらと思います。

会長

他にいかがでしょうか。

これまでの振り返りと今日、若干の修正というか意見の付け足しがありました。が、よろしいですか。

それでは、第4回までの議論で、以上のような門真の教育の方向性について、一応の結論を得たということです。

先ほど委員からお話がありましたように、これを画にかいた餅に終わらせては何にもならないわけで、最大限の努力をしながら、今後、では具体的にどのようにこういった構成を実現していくのかということについて議論をしていきたいと思っています。そういう中で、つながりということで行くと、小中一貫校も含めた義務教育学校ということも可能性としてあるような気がしますので、具体的な議論をこれから進めていきたいと思っています。

ただ、方向性の議論もこれで終わりではなくて、具体的な議論をしていく中で、こういう方向もあったほうがいいんじゃないかということも出てくると思いますので、それもどんだしていただきながら、具体的な実現性の議論をしたいと思っていますので、よろしくをお願いします。このテーマについてはこれでOKということにしたいと思っています。

続いて、この適正配置審議会の具体的にどう学校を、地域も含めて考えていくのかについて議論に移りたいと思います。

資料が2、3、4ですか。これをまとめてご説明をお願いします。

事務局

失礼します。私の方からは資料2、3、4について説明させていただきます。前回、中学校区ごとの詳細な資料もお渡しして、これから議論に入っていただくところではございますが、門真市の学校の統合の歴史や、校舎の建築年数や子どもの数などについてももう少し説明させていただいて議論に入っていただければと思います。

まず、資料2から説明させていただきます。門真の学校の移り変わりについて

ということで、スライドを使って説明いたします。こちらは昭和10年、1935年ごろの様子となっております。この外枠が今の門真市と同じです。当時はまだ市にはなっておらず、4つの村がありました。そして、それぞれの村ごとに学校が存在していました。昭和35年、1960年まで小学校はこの4校だけで、その後、学校が分離していきました。学校分離の様子はまた後程紹介していきませんが、なぜ学校が分離していったのかという大きな要因は人口の増加になります。こちらをご覧くださいと、1960年から10年後、1970年にかけて人口が急増しているのがわかるかと思えます。それに伴い、子どもたちの数も増えていくこととなります。

次のスライドは児童・生徒数の推移になります。こちらについては前回の資料でも見ていただいたかと思えますが、ピークが小学校の方で1979年、中学校の方で1985年になっています。先ほど人口が大幅に増えたのは1970年とお伝えしましたが、その後を追って子どもの数がまだまだ増えているという状況です。

次は1970年の小学校の児童数、それから学級数です。少し見ていただいて、今と比較すると、とても驚く数字ですが、門真小学校では2000人を超え、学級数も54学級という想像も難しい状況となっております。1960年では4校だった学校が10年間で4校から10校に増えているという状況にもかかわらず、このような多くの人数が学校に通っていたことがわかるかと思えます。

続いて学校がどのように移り変わっていったかということについて紹介していきます。学校の位置については現在の位置で資料を作成しています。まず1872年に門真小学校、大和田小学校が誕生し、その後、1874年に四宮小学校、1875年に二島小学校が誕生しました。これは先ほどの4つの村の学校です。その後、徐々に人口が増え、1961年に門真小学校から北小学校が、1965年には門真小学校、大和田小学校、四宮小学校から古川橋小学校が、さらに北小学校から中央小学校が1966年に誕生しました。1967年には四宮小学校から南小学校、1970年には中央小学校から浜町小学校、大和田小学校から沖小学校の2校が、翌1971年には門真小学校から速見小学校、大和田小学校から上野口小学校ができました。1972年には脇田小学校が建ち、ほぼ毎年のように学校ができていったことがわかるかと思えます。その後、1974年に北巢本小学校、1976年に五月田小学校と水島小学校、そして1983年に四宮小学校、脇田小学校から東小学校が誕生しました。多くの学校が分かれていき、一番多い時で17校の小学校があったこととなります。

続いて学校が統合していった様子です。人口が増加し、子どもたちの数も増えていきましたが、その後、子どもたちの数も減っていったという中で、学校の統合が行われてきました。最初の統合は南小学校と水島小学校の統合で2005年にこの2校が統合して砂子小学校が誕生しました。その後、2008年に中央小学校と浜町小学校が統合し、浜町中央小学校ができました。続いて2012年に浜町中央小学校と北小学校が統合して門真みらい小学校ができました。そして現在の14校となりま

した。

続いて中学校の分離・統合です。小学校の児童数が増えていけば、その後生徒数も増えるということで、もともと第一中学校の1校のみでしたが、その後第二中学校、第三中学校というように分離が進んでいき、その後小学校と同様、生徒数の減少に伴い、第一中学校と第六中学校が統合し、門真はすはな中学校が誕生し、現在の6校となりました。

今お示したもののの中で統合だけを取り出すと、小学校で3つ、砂子小学校、浜町中央小学校、門真みらい小学校、中学校については第一中学校と第六中学校の統合で門真はすはな中学校ができています。児童・生徒数に注目すると、本年度の児童生徒数は7673人となっておりますが、一番児童・生徒数の合計が多かった昭和55年は24088人子どもたちがいたこととなります。簡単ですが、まず資料2の説明は以上となります。

続いて資料3に移ります。こちらは先ほど地図で見てもらったものを縦に並べて、学校ごとに比較しやすくしております。この資料は前回にも同じような形でお示ししていますが、今回はそこに学校の建築年度や大規模改修の実施の有無等について記載しており、見てもらうとどこの学校が古くて、どこが大規模改修を行っているということが各校ごとにわかるかと思えます。右のほうを見てもらいますと、本年度時点の子どもの数や学級数、それから築何年経っているのか、大規模改修実施校は大規模改修から何年経過しているかを記載しており、本年度について比較するにはこの令和元年を縦に見るとわかりやすいかと思えます。その右に移ってもらくと、令和7年の推計による児童・生徒数、学校数、それから令和7年時点の築年数などを記載しており、令和7年時点の状況が見てもらえるかと思えます。各学校ごとの比較がしやすいようにこのような形の資料を作成いたしましたので、ご参考にさせていただければと思います。

最後に資料4です。こちらについては前回お渡ししている資料と同じになりまして、校区面積、校区人口、校区児童・生徒数をお示した資料となっておりますので、こちらもこれから議論していただく際の参考にさせていただけたらと思いますので、よろしく申し上げます。

以上で資料2から4の説明を終わります。

会長

ありがとうございました。これまで4回の議論で門真の学校の在り方、方向性について確認をしました。そういう意味で、つながりということをベースに置いて、これから門真の学校を新しく創っていくというような方向性は、皆さん了解いただいていると思うのですが、そういうなかで、前回だったと思いますが、建物の話も出てきて、本当に信じられないような老朽化状況があつて、先ほど楽

しく過ごせる学校というようなことも、一つの目標になっていましたけど、とてもじゃないですけどちょっと厳しいような校舎も結構あるような気がします。そういう意味では、新しい学校づくりの基本的な方向性というのは、単純に建物はそのまま、中身だけ変えていくというわけにはいかないような状況があるのではないかと思います。そういう意味で、建物も含めて門真の学校は新しくしていく、新しい方向に向かっていくような議論が、まず必要ではないかと思いたすがいかがでしょうか。建物も一緒に考えていく。とにかく学校の先生が頑張っていて、「古い汚い校舎だけど、こういう教育をやってくれ」と言いうのもありかもしれませんが、それはさすがに…。いかがですか。学校の先生に聞いてみましょう。

委員

それは厳しいです。前にも言いましたように、私は今年の四月に一番新しい門真はすはな中学校から第二中学校に移ったのですが、ある意味カルチャーショックでした。三年間、門真はすはな中学校で慣れてしまっていたので、過去に勤務していたころの校舎から変わっていません。ある程度設備が整っていないと、ICTを導入して新しい授業を創ったり、雰囲気づくりは大事だと思いますので、設備などに関しても整備してほしいなというのは強くあります。

委員

本校(第四中学校)は、平成11年に大規模改造をしていただいているということで、私は他市から来たのですが、なんてピンクでかわいい校舎なんだとちょっと感動して、ここで頑張ろうと思ったのですが、なかに入るといろいろ細かい施設の不具合であったり、そのたびに教育総務課の方に修理や修繕をやっていただけているのですが、大きな部分はなかなかできないところがあり、会長がおっしゃったとおり、新しい教育を私もしたいと思っているなかで、もっと我々の努力も必要なのですが、やはり施設の部分というのを考えたら、子どもたちのモチベーションを上げるには、子どもたちに見えるところについても大事だと思いますので、いろいろな事情はあると思いますが、ぜひ新しい建物になれば我々もより頑張れると思いますので、どうぞよろしく願いいたします。失礼しました。

会長

そう意味でやはり、校舎も含めて新しく考えていくということで、これからの議論は進めて行きたいと思います。小学校は現在14校ですね。新しい学校ももちろんありますけど、例えばひとつ校舎を造るのに、今、費用としてどれぐらいかかるのですか。規模にもよりますが。

事務局

今の事例等々を調べていると、平米当たり30万円という建築費がかかると考えています。想定する面積が例えば12,000㎡だとすれば、35～36億円ぐらいの建設費は必要になるのかなという試算をしています。

会長

それに消費税がかかるし、設計費もかかるしそういう意味では、30億円を超える金額はかかるということです。仮に10校を建設したとして300億円ですね。門真市の財政規模はどれぐらいでしょうか。

事務局

600億円程度です。

会長

では半分を学校に出してもらえれば、ということですね。とはいえ、そんなことをすれば、えらいことになりますので、そういう意味ではやはり財政的な限界もありますし、特に門真市の財政が豊かな感じはあまりしないので、庁舎も中学校の校舎を活用しているような状況ですので…。

委員

建物の建て替えとかということもあるんですが、私は何校かボランティアに入っているんですが、ほとんどの学校が雨水の排水がどこか途中で消えているとか、排水が悪いとか、特に門真小学校は手洗いの前に大きな会所があるんですが、なにかの工事の際にコンクリートで埋めてしまって、そこに小さな穴が開いていてそこから長い時間かけて流れていく状態なのです。以前に学校に図面をもらいに行ったのですが、古い図面しかなくて現状とは変わっていた。とにかく下水排水がきっちりしておかないと、建替えても基礎がダメになってしまうから建物が早く痛んでくる。お金がないのであればとりあえず埋まっている会所を掘り起こしてもらって、排水管の位置を調べて先に緊急としてやってほしいなと思います。

会長

学校を新しくするといっても、いっぺんに全部新しくできわけもないので、現状の校舎を長持ちさせながら、メンテナンスについても、きちんとやっていくということも重要になってくる、というご意見だと思います。ぜひそれも活かした

がら新しい学校づくりを進めたいと思います。

先ほど話をしました、600億円のなかで300億円かけてやるかという、それは絶対に無理な話で、そういう中で少し整理をしながら、選択と集中という言い方がありますけれども、学校数を減らすことによって、建て替えの財政的な負担をある程度は抑えられるかもしれません。そのようにして、建替えの予算を獲得しながら進めて行くというやり方が基本的には、門真市の財政状況とか学校の状況を踏まえると良さそうな気がしますがいかがですか。数の問題は少し議論しながら新しい学校づくりを進めて行くような方向性はあるような気がします、数の問題というのは当然、学校統合の話を含めてという意味です。前回か前々回の議論にも学校統合はそんなに簡単な話ではない。やっぱりこれまで地域が慣れ親しんだ学校で、それを簡単に無くしてしまうということについては、やっぱり地域にとっては非常に抵抗感もあるし、抵抗感があるということは、それは愛着の裏返しということだと思います。そういう意味で、学校統合に関しては慎重に議論していく必要がありますけれども、そういうなかで未来に向けてどういう学校を創っていくかということを中心しながら、そこでどんなふうに上手に学校統合を進めていくか、あるいは学校統合に変わる別のやり方でうまく学校が新しく建替えられるような仕組みができれば、皆さんでそういうことも含めて知恵を絞っていただいて、これから議論していただきたいと思います。

それでは、少しだけ数の問題にこれから触れて行きたいと思いますがいかがですか。

委員

数は、いま会長がおっしゃられたように、絶対に減らさないといけないと思います。私が50歳の時ですから29年前に、体育指導員を20年ほどやっておりましたけれども、その時は17校あって生徒数も多い時でした。今は14校に減ってさみしいですが、まだまだ減らしていただいて。こちらの一覧表にある生徒数が100人台というところがありますね、そんなところか、条件のいいところから一個一個、3年がかりとか5年がかりで、減らしていくのがベターだと思いますね。とりあえず具体的に、こことこの学校を合併させたらいいじゃないか、各地元のわかっている方ばかりで相談して、我々審議会の意見はこうですよということ言ってあげたら。とりあえずどこか一個やってみる、そういうことでいいんじゃないかと思います。

会長

今のご意見いかがですか。優先順位をつけながら、いっぺんにそれこそ全部というわけにはいかないの、数の問題を議論していく中で、建物の老朽度とか、

あるいは地域のつながり方、校区のつながり方、それから子どもの数の問題、含めて議論していきながら優先順位をつけていくということだと思いますが、いかがでしょうか。

委員

どっちみち学校統合しないとこの状態では、まともな教育も難しいと思いますね。また、教師への負担が増えるんで教師も大変だし。そういうことを考えたら、地域の人が反対する部分も分かるが、自分たちの子や孫に、快適な教育、快適な地域、その為にさっき言ったように、廃校した一部分を残して、地域コミュニティにして、自分たちの地域の子どもが学校統合で、よその学校に行っても、地域が一丸となってコミュニティを創って、そこでいろいろな行事ができるはずなので、それを私たちは生徒指導員としてやっていこうとしているんですが、なかなか、一步進んだら30センチぐらい下がってという状態がここ10年ほど続いていますので、私たちもいつまでも元気でいられるわけではないので、若い人とか、教育委員会の人に骨を折っていただいて、そういう方向でいけば学校統合もそんなに難しくはないんじゃないかなと思うんです。全部残すのではなくて、一部分だけ残すというふうなやり方をやっていったら、学校統合されても地域の人たちは、それだったらそこにいられるとか、自分たちの育った学校がここに残っているという考えでもっていったら、そう難しい問題ではないと思う。

会長

もし廃校になったとしたら、利活用についても考えておかなければならないということですね。

委員

今この地図を見させていただいたのですが、脇田小学校、砂子小学校、東小学校、その3つを一つにするというのは、一番いいのではないのでしょうか。そんな気がするのですが。

委員

私も同感です。小学校のなかで令和7年度に、砂子小学校が51人という推計になっています。こうなると、学級自体が存在しない複式学級という形式になると思います。こういう学校を門真で創ってしまうというのは良くない。早急に手を打たないといけないと思います。

会長

そうですね。複式学級になりますね。

委員

島の学校ぐらいの規模ですね。

会長

いきなり生々しい話として、まずひとつ、砂子小学校と脇田小学校と第四中学校ですか。

委員

東小学校は地図で見たらかわいそうですよ。第四中学校に行ったら遠いから。

委員

東小学校は第五中学校に行きます。

委員

そうですね。

会長

東小学校の委員はいらっしゃらないでしょうか。

委員

私は砂子小学校なのですが、人数的にも多分そうであろうなど。まず、最初に手をつけるべきところになるかなと思っていたんですけど。ただ、この間に校区の運動会の際に、地域の方に、統廃合の話何か聞いているかと言われてまして、統廃合ではないですけど、そういう会議には出させていただいていますと言ったのですが、統廃合は反対だと言われました。今、門真団地を建て替えていって、それが終われば新しい人が入ってくるから、人が増えるので大丈夫と言われたのですが、建設自体も完成が何年後になるかもわからないし、今の子どもの親としては、やっぱり人数が少なすぎるから、ゆくゆく、学校統合は仕方ないのではないかと、子どもの数自体が減っているのだからということをお話したのです。守口でも小中一貫校にしていっているという話をし、守口でも地域の住民の方の反対が最初はあったけど結果的にはやってよかったと今はなっているみたいです、という話をしました。

会長

それは、僕は歓迎です。反対していただかないと困るんです、逆に。地元の学校がなくなることに対して、どうぞどうぞやってください、なんていう地域ってやっぱり学校に対する愛着が無いのではないかなと思うんですね。

委員

熱意が足りないということですね。

委員

そうですね。それをベースに、学校が大好きでなくなってほしくないという気持ちを、どう活かしながらやっていくかというのが重要なところだと思います。だから、反対の意見は絶対に否定的に考えてはいけないと思います。そういうなかで、統廃合を先走るよりも、むしろ小中一貫校を創るという想いで進めて行かなければいけません。

小中一貫校というのは絶対的に施設一体型と言って、小学校と中学校が一つの建物でいっしょになる形が絶対に一番上手くいくんです。離れていて小中一貫校というのもあります。小学校と中学校が別々の校舎で離れているけれど、小中一貫校をやっているような学校もあります。連携というのですが、これは委員に説明していただいた方が良いでしょうが…、後で補足してください。一つの建物のなかに小学生と中学生が一緒にいて、それで初めて中学生のお兄ちゃんやお姉ちゃんってすごいとか、小学生をかわいがってやろう、というような気持ちが起こるんですね。ですからやっぱり、新しい小中一貫校を創るということを見ると、一緒になったほうがいい。だからそれは、学校統廃合とは意味が違うと思います。

委員

私は、統廃合ではなくて小中一貫校にしていくという会議には出させてもらっているけど、まだ具体的には何も決まっていないので、統廃合とは聞いていませんと言ったんですけど。守口の例を挙げて、小中一貫校にして反対もあつたけど、結果的にやってよかったということになっているので、ゆくゆくは門真も同じようになればいいなと思っていますと言ったんですけど、“まあまあ悪いようにならなかつたらいいけど”みたいな感じで言われました。やっぱり、地域の方とのそういう話はとても大事だなと感じました。

委員

思い出していたんですが、本当に小中一貫校になった学校の時も、すごく反

対があつてですね、保護者の方なんですけども、ずっと最後まで反対されてきました。ところが一年後に校長先生に本当に悪かったと、あのとき本当にやってもらつてよかったというようなことを言われて、校長先生も“ヨシッ”と思われたということもありました。ほとんどのところがそうです。やっぱり、その反対というか、不安に対して見通しが立たないので、そういうことは良く起こりますし、私がいた小中一貫校でも同じようなことがありました。そこで、何がその考えを変えたのかというと、結局、学校を見るのか子どもを見るのかという違いだと思いました。だから、学校を守らなくてはいけないということではなくて、さっきおっしゃつたみたいに、未来の子どもたちとか孫たちに、なにを残すのかと言つたときに、子どもを見たときには違うことが見えてくる。だから、私たちは門真の教育、どんな子どもにしたいのかというのを考えてきたのと違うかなと思うんです。ですから、もちろん学校の統合とかいう大きな問題に関わってきます。でも、この門真の子どもたちに何を残したいのかということを考えてときに、やっぱり統合、あるいは小中一貫校という選択肢が出るのではないかなというところに戻ればちょっと違うと思います。

会長

統廃合じゃないと思うんですね、これは。学校が新しくなるというふうに考えたほうが良いと思います。砂子小学校がなくなるわけではない。砂子小学校が成長して変化していく、というふうに考える必要があるのではないかと思いますけれども。もう一つ、人数が少ないから一緒にするんだという議論は、あまり好ましくないように思います。やっぱり、いい学校を創るために、こことここが一緒になった方がよいというような考え方の方がよいと思いますけれども。どうでしょうか。たまたま、今、砂子小学校の人数が少ないんで、そういうふうに見えちゃうんですが、実はさっきの小中一貫校という視点とか、校舎の古さとか、考えたら、ここがまず門真にとって最初のモデル小中一貫校ではないかというふうに思うんです。それで、たまたま砂子小学校の人数が少なかつただけのことで、これでもうちょっと人数が多くても、多分ここがモデル校になつたと思うんで、人数が少ないところを削っていくという考え方で、この審議会はあまり進みたくないんですが。いかがですか。

委員

僕の言い方が悪かつたです。同じことを言いたかつたんですが、さすが会長だと思ひました。わかりやすく説明していただいて。

会長

そんなことはないです。

委員

人数が少ないということは、なるべく言わないようにします。

会長

ということで、まず一つの可能性として、第四中学校、砂子小学校、脇田小学校で小中一貫校を創るということが可能性としてありそうですが、いかがですか。さっき、東小学校の問題も、ちょっと出ましたが、この辺についてどなたか詳しい方いらっしゃいますか。本当にここは(第四中学校の)そばですから。

委員

私もそんなに詳しくわかっているわけではないんですが、東小学校からは毎年、10名ぐらい本校に来ております。

委員

中学校区が二つに分かれている。

委員

それでそういう図の描き方になっているんです。それで、人間関係づくりの部分で長く在籍している職員に聞いてみたところ、やっぱり当初に大きなトラブルにならないにしても、人間関係づくりのなかで、やっぱり学校によって文化が違う部分があるので、やっぱりうまくいかなかったり、そういったことが若干見受けられると。ただ、歴史的な背景からおそらく、通学距離のこととか、いろいろな諸事情で、こういったかたちで割られているんじゃないか、自治会のつながりとかあるかと思うので、しっかり議論したうえで、先ほどおっしゃった、子どもを中心に考えるのであれば、どういったかたちでの校区割りを考えるのか、そういった議論をここで、数の議論ももちろん必要なんですけれど、この議論も必要じゃないかなと、私は思っております。

会長

要するに、小学校は東小学校で一つの学校に通っているのに、中学校で二つに分かれちゃうという状態がここにはあるということですね。それについてはいかがですか。

委員

もし、砂子小学校とかが、数ではなく新しい学校を創る始まりになるとすれば、今までに、ほそごう学園を見学させていただいたり、学校の先生方の話をきいたり、皆さんの意見を聞いていて、一貫校が出来るのであれば、7年生から編入というのは、子どもさんの目線考えると、かわいそうだなと思います。でも、いろいろな事情があると思いますので、軽々しくは言えないですけど、この地域に住まれている方が、新しい学校、一貫校ができるのであれば、はじめからその新しい学校に行くか、東小学校からみんなが第五中学校に行くか、という選択ができるような進め方ができるといいなと思いました。7年生からこの地域の方だけ一貫校に編入というのは心配だなと思います。

会長

この部分が、もし小中一貫校になったときは、小学校は東小学校に通って、7年生になったときに小中一貫校に入るということで。小中一貫校で育ってきた子どもたちと合流することになるので、それは大変そうですね。ここら辺の経緯とかはどうなんですか。

事務局

先ほど学校の歴史ということでスライドをご覧いただきましたが、東小学校が一番最後にできた小学校です。その当時、四宮小学校と南側には脇田小学校があって、その四宮小学校と脇田小学校の児童が、東小学校に通うということで、東小学校ができたという歴史があります。その際に、どこで校区割りをするか、児童数も含めて、様々な議論があったかと思います。その時には、東小学校と脇田小学校との間にまっすぐな縦線があると思いますが、そこが府道になりました、ちょっと大きな道路になっていますので、原則その府道で校区割りをするというのが、おそらく最初の議論だったんじゃないかなと思います。これは、推測の部分もあるのですが。そのなかで、地域の方々といろいろ議論していくなかで、どういう校区割りをするかとなったときに、オレンジ色になっている地域を東小学校にしましょうというのが、おそらく地域と学校と教育委員会との話のなかで入ってきたと。その際に中学校は近い第四中学校に行くということで、府道に小中の境ができた。

当時は、ここだけでは無くしていろいろなところに小中が分かれているというところがありました。その後の学校適正配置審議会の議論として、小中一貫教育を進めていくなかで、一つの小学校から複数の中学校に分かれるというのは好ましくない、出来るだけそこは一つの小学校から一つの中学校にしていきたいと思いますということで、整理してきた経緯があります。過去には小学校、中学校の校

区割りはそれぞれ別で考えられてきたという経緯がありますので、今となっては何でここだけこんなことになっているのかと見えますが、当初はどの小学校もそういう状況であったというところなのかなと。小学校と中学校はあまり連動して考えられていなかったというのが、学校が分離してきたときの考え方のかなと思っています。

会長

この部分の校区を将来的には、こっち(第四中校区)と一緒にしてしまって、ここで小中一貫校にまとめていくというのは一つの案としてありそうです。そうじゃないとすれば、第五中学校校区に行くというパターンもあるんですかね。その場合は、そばに小中一貫校があるのに、ちょっと大変ですよ。となると、ここはこっちで(第四中校区)進めて行った方がいいと思います。地元はいかがですか。委員はご存知ないですか。

委員

ちょっと離れていますが、東小学校の児童が数名だけ第四中学校に行くということが、ちょっと嫌だなというのは聞いたことがあります。ほとんどが第五中学校に行っちゃうので。第四中学校に行くのは本当に少ないのでかわいそうだと思います。

委員

学校側の立場からの話なのですが、体験授業というものをやっております、当初は東小学校の子も体験授業に来ると思っていましたが、東小学校は来ないと聞いてびっくりしたんです。今年度からは東小学校の児童も参加できるように調整しているのですが、やっぱりスタートの段階で若干の差が出るというのは公教育という部分ではふさわしくないなと思いました。ほかにもそういうことがあるのであれば、解消していったらいいなというのは、学校現場としては思っています。

会長

それでは、第四中校区側に含めて考えていくという方向で議論したいと思います。それからもう一つ、これで終わりではなくて、次の学校をどう創っていくかという議論も当然必要になってくると思います。そういうなかで、学校の古さですとか、学校の敷地の広さとか、あるいは子どもの数も含めながら、これから脇田小学校、砂子小学校、第四中学校で一つの塊を考えていくというのがあって、それで次の塊としては、どこを想定すればいいでしょうか。

委員

中学校も6校あることについては、教育委員会としては5校とか4校にするという案はあるのですか。中学校は6校で決めて進める予定なんですか。

事務局

我々としては、審議会の方できっちりと議論していただいたものを基に考えていきたいと考えております。

会長

議論として小中一貫校というものは非常に効果があがっていて、いい学校のシステムだということは皆さん承知されていると思うんですが、門真市で小中一貫校をどれだけ広げていくのかということがありますね。極端な話をすれば、全校小中一貫校にして、新しく創られている学校については仕方がないので分離、連携型という形にならざるを得ないところもあると思いますし、できるならなるべく一体型で学校を創っていくということも視野に入れていいのではないかと思います。そういう意味も踏まえるところは非常にわかりやすい、小学校と中学校がくっついていますし、校地としても広いものがありますので、小中一貫校としてはやりやすい、いい学校が創れる状況です。その中で、ほかの地域はどうするのかということも含めながら検討いただければと思います。

以前統廃合がうまくいかなかったところはどこでしたか。

事務局

前回の第3次適正配置審議会では、北巢本小学校と四宮小学校を統合して、北巢本小学校の校地に子どもを通わせるべきではないかということでしたが、これは現在のところ白紙という状態で、次の審議会等に委ねていきたいということになっています。

委員

地図的、地理的には一緒にしてもいいかとは思いますが、地元の方々の思いもあると思いますので。

会長

前回は四宮小学校を北巢本小学校に、という議論だったんですね。

事務局

そのような議論で、答申されました。

会長

四宮小が元々あって、そこから北巢本小は分離したんでしたよね。

事務局

そうです。先ほど事務局から説明させていただいたように、学制発布に近い年からある学校です。

会長

東小学校も四宮小からわかれたんですね。校舎は古いんですか。

事務局

資料3に記載しております。

会長

四宮小は築53年ですか。親というよりはおじいさん、おばあさんですね。それから北巢本小が44年、東小学校が35年。ということはこの辺りは校舎の老朽化が進んでいると思いますので、新しくするというのも踏まえながらどういう分け方がいいのでしょうか。

例えば、前回うまくいかなかった四宮小、北巢本小と一緒にあって、その学校と五中と東小で連携型の小中一貫校とする形が一つ考えられるかもしれませんね。もしくは、現在、別の自治体で取り組もうとしている方法として、一つの中学校にまとめると1500人規模の学校になってしまうので、中学校を2つに分けて小学校に引っ付けるということがあります。ただ色々と難しいことがあり、校区も相当触らなければいけないということもあります。

この古い四宮小学校を何とかするという事で考えていきましようか。ちなみに五中は古いんですか。

事務局

五中については大規模改修をしたばかりです。

会長

では、五中は触りにくいですね。今日結論を出すということはありませんが、宿題としてここら辺をどうするのかということは考えましようか。ここは旧の村に対応しているんですか。

事務局

四宮村に対応しています。

委員

前回の答申では、北巢本小学校を建て替えて統合ということで、反対が起こったようですが、子どもの数を見れば四宮小の方が多くて、人数の多い学校が少ない学校に行くということで、地元の方の反対が多くあったのかもしれませんが。最近では災害も起こって、地元の方も学校は安全・安心の場所であってほしいという思いを持っておられると思うので四宮小がきれいになって統合するという案でいっても反対は起こるんですかね。

委員

四宮小と北巢本小の間には国道が走っているので、それを横断するのに問題があるという話がありました。

会長

国道163号線ですか。

委員

そうです。

会長

でも、今すでに四宮小の子どもも横断してきていますよね。

委員

国道を渡るのは危ないということで、保護者の反対があったという意見を聞いたことがあります。

委員

基本的に、今ある中学校区を触るということは考えないのかということで、地理的に言えば例えば、大和田小学校と上野口小学校と古川橋小学校は、人数的には少なくなっていくだろうというところで、現在の中学校区をまたいで、このエリアで新しい中学校区を創るということも含めて、今現在の校区割りで考えることに苦労しているので、思い切って先ほど中学校の統合という話も出たように、もう少し地理的に見て考えることはできるのかできないのかということは思いました。そもそも一番最初に4つだったものが人口の影響でたくさん学校

ができていき、校区が分かれていっている、枝を創っていっている、では今度は人口を見ながら、子どもたちのことを思いながら新しい未来に向けた校区割りというものを考えてもいいのではないかなと思いました。今の校区で考えると難しいように感じていますが、校区割りを変えるというようなことをここで検討することはあり得るのかということはどうでしょうか。

会長

それはここで議論していいんですかね。

事務局

もちろん議論いただいて構いませんが、審議会の開催の回数や、これまでの校区のつながりというものがあります。そのようなつながりについては事務局としても大切にしていけないといけないと考えておりますので、そのあたりもお含み頂ければと思います。

会長

役所的なコメントですね。

事務局

夢を語っていただく場ですので、最終的にそこは排除しないというところかもしれませんが、優先順位というものを考えていただく必要があると思います。今後ハードルの高い話し合いをしていくこととなりますので、次の課題や、その次の課題を見すえながら、じっくり地元の方と話し合いをしていかないといけないものなので、軽々に市としてオクケーですというのはなかなか難しいところではあります。まずはどこからいくのかというところを戦略的に考えていく必要があるのかなと思います。

委員

地域のことはよくわかっていないので、資料からのみの情報で素直にみるという立場で前回も発言しましたが、校区の面積的な問題、それから築年数の問題、児童数の問題、トータルで合すと先ほど出ていたように、砂子小学校についてはすぐに手を打っていかねばならない問題だというように感じます。その次に手を打っていただきたいなと思うのが、やっぱり北巢本があがってくるんですけども、面積的な問題、児童数、今後の児童数の減の状態、それから築年数含めて、2番手には考えていかねばならないのではないかと思います。先ほど統合がうまくいかなかったいきさつもお聞きしましたが、その時代と違って、

今、喫緊に迫っている子どもたちの問題であるということを地元の方にも理解していただく必要があるのではないかなというふうに、資料だけをみればこのように感じます。その際に、客観的にみると四宮小学校の方に入っていってもらうほうが、地理的にはこの校舎を建て替えるということのほうが地理的にも校舎の古さからいっても妥当ではないかと思います。もちろんあくまでも資料からの情報ではありますが。

そんな時に、将来的な展望として、四宮小学校と第五中学校はどのくらい離れているのでしょうか。

事務局

子どもの足で歩いて10分以内に距離ではあります。

委員

なぜお聞きしたかという、私が今関わっている自治体の小中一貫校は、5年生までが小学校の校舎に通って、6年生からは中学校の校舎で過ごすということで、5・4制という小中一貫校です。そのような点で考えると、五中と四宮小、もちろん東小学校の問題もありますが、施設分離型の小中一貫校の可能性が出てくるのではないかということを考えます。第五中学校の方が大規模修繕をされてまだ間もないということですので、こちらの校舎に、例えばですが6年生から入るといようなことも小中一貫校のハードルも低く、面白いと思っています。

会長

小中一貫校というものを一つの前提に進めていくのであれば、委員がおっしゃられたように、必ずしも6・3の分離型ということではなくて、5・4の分離型もあるし、もう少し違うやり方もありそうということですね。

それと、今少しひらめいたんですが、東小学校に通っている子どもで、五中に近い子ども、四中に近い子どもという見方で校区を分けて、四中に近い子は四中での小中一貫校、五中に近い子はこちらでの小中一貫校に行くという視点で、五中に新しく校舎を建てて小中一貫校というものはできませんか。敷地面積はどうですか。五中、四宮小、北巢本小で広いところはどこですか。

事務局

第五中学校が約1.8ヘクタール、中学校の中で言いましてもそんなに大きくない敷地です。四宮小学校については約1.7ヘクタール、北巢本小学校は少し狭くて1.4ヘクタールです。

会長

では、敷地としては第五中学校が一番広くはありますよね。空き教室もそれなりにありますか。子どもの数も減っているので多分空き教室もあると思いますが。大規模改修をやってしまうと、もう一度改修というのはあり得ないですか。

事務局

当然国税の投入されているものになりますので、理由は相当に必要になると思われます。国としても順位付けをして、古いところを安全にしたいという思いもありますので、そのような話は出てくる可能性はあります。

会長

この大規模改修は構造的な耐震改修だけではなく、中身も相当いじっていますか。

事務局

相当やっています。トイレでありますとか。その結果、子どもたちが通いやすくなったとか、トイレに行きやすくなったとかということで、この間、文部科学省の方も、大規模改修の良い例だということで視察にも来られました。

委員

国からだいぶ補助がもらえるんですよ。

事務局

三分の一補助を頂いています。

委員

三分の一だと30億かかるとすると10億は出るということですか。

会長

10億は出ないですね。

事務局

全国的に古くなってきているところも色々あるので、順番も含めてなかなか全てを全ての額で補助するということは厳しい状態になっています。そういう意味で、文部科学省だけでなく色々考えていきたいと思います。

会長

少し膠着状態になってきましたね。

委員

とりあえず1つを、2つも3つも案を出してもできないと思うので。

会長

ただ、先のこともある程度見通して、案をつくっておかないと、先ほどのように、ここは大規模改修をやってしまったので何にもできなくなるということもありますので、ある程度先は見通したほうがいいと思うんですね。そういう意味で、まず小中一貫校をどうするかという議論も実は重要だと思うんです。大なり小なり色んな小中一貫の方法があるけれども、門真市は全部小中一貫校にするのか、それとも小中一貫校もあるけど、これまでのように小学校と中学校が別々で、交流等はやっているというような校区もあるというふうに考えるのか、そこらへんがこの学校の再編にも関わるような気がします。

委員

教育委員会としてはどうお考えですか。

事務局

教育委員会としてこうしてくださいということはこの場ではなかなか厳しいところではあります。ただし、みなさまにずっと考えていただいているところは、子どもたちにとって何が一番重要なのかというところで、夢となる方向性を決めていただいているところかと思えます。それに従って、我々としても考えていかなければならないと思っております。

委員

以前視察に行った池田市のようなお金のある市でも1校しかないので、1校するだけで精いっぱいだと思うので、一つやってその次に進まないはこの会議では進まないと思えます。

会長

そうですね。全部小中一貫校にするということを前提にしていくと、相当複雑なことをやらないといけないという気がしますよね。この審議会で門真の古い学校を全部改修するプロセスを提案するわけではないと思えます。ある程度期間を決めて、その間に何を優先的にするかということ議論していくという会

だと思いますので、例えば基本的に全中学校区で小中一貫校を実現することが望ましいとかそういう提言の仕方はないと思います。そのうえで、この段階ではこれとこれとをこのように考えていくというような方法もあると思います。

副会長

ハード面では優先順位を決めてという話だと思いますが、市としては小中一貫教育は全部で進めますというスタンスではなかったでしょうか。

事務局

10年以上前から小中一貫教育は進めていくということは謳っております。

副会長

教育の中身としては分離型などいろいろありますが、門真の子どもには全員に9年間見通して、めざすこども像を一緒にしてというような、やり方の差や物理的なものはあるとは思いますが、そういうものを進めていく中でのモデル校、リーディング校というものを優先的に、物理的な条件が整っているところをチャンスと捉えて創っていきましようという理解でいいでしょうか。

事務局

その通りです。

副会長

人数のことが話題にあがっていましたがけれども、私も四中校区のことを一番に考えるといいかなと思っています。教育の中身で言っても、四中校区では中国からのお子さんへの指導も含めて、様々な教育を進めていただいて、教材づくりやノウハウなども蓄積されています。今、日本全体が外国からの子どもをどう受け入れるかということが大きなテーマとなっております、おそらく文部科学省も予算的にいろいろな施策をうったり、大阪府も新しく打ち出してくる時期だと思います。そのような中、これまでに実績を積み上げてきたこの中学校区の取組というものはモデルになるのではないのでしょうか。人とのつながりの中で、多様な仲間とともにということで打ち出されていますので。また一方で、本当にいろんな多様な仲間とあーでもないこうでもない話し合い、自分はどうか考えるんだろうかということで、ICTを使いながらや調べ学習をしながら、班で考えをもちより、ディスカッションをし、もう一度自分にフィードバックして考えを再構築し発表するというような流れがあります。このような学習活動を行うには一定人数が必要です。あまりに少ないと交流も成立しません。このようなこ

とから人数が少なすぎると多様な学びを行いにくくなるのではないかということだと思います。ですので、砂子はこれまでの多様な学びの形態を発展させていただくという面で、施設一体型の形で行くと門真のリーディングスクール的な役目を果たして頂けるのではないかなと思います。

併せて、北巢本小学校の話ですが、理屈で言いますと人数が同じように少ないですから、やはり何とか多様な学びができるように、一気に施設一体型にならなくてもいいので、どちらがどちらに行くかはわかりませんが、一定の数の中で学ばしてあげたいなという思いがあります。ですので、順番で言うと二番手になるのかなと思いますけれども、論議の継続ということで残しておく必要があるのではないかなと感じています。

会長

今日結論が出るような話ではないと皆さんわかっているとは思いますが、ご意見いただいてない方はいかがですか。

委員

大規模改修が行われている学校が小、中に何校かあって、五月田小と七中も隣同士だけれども五月田小はきれいになっているというような諸事情もあって、なかなかこことここをというふうに進めていけない現状があるのかなというところもありながら、そのような中で施設一体型も創りつつ、分離型でも小・中の連携をしっかりと取れるような進め方をしていかないと門真全体の校区で、一つの中学校、一体型でというのは少し厳しいのではないかなと思います。小学校の人数が少ない中で、子どもの成長にあたってはたくさんの人数の中で学んでいくことがいいかなというふうに思うので、そこらへんは小学校同士の統合を考えつつ、前に進んでいけばいいのかなと思います。

委員

どこから手を付ければいいのかわからないところもありますが、人数が少ないところは最初にやってもらいたいなと思います。

会長

小中一貫校の話ばかりをしています。実は幼・保・小連携という話もこれから重要な課題になってくると思うんですが、その点も踏まえながら、例えば四中校区が最初のモデルとして挙がっていますが、幼・保・小の連携という観点で何かご提案はありますか。

委員

砂子みなみこども園は砂子の地区にありますが、何年か前までは保育園を卒園していく子どもたちはほとんど砂子小学校か脇田小学校の二つに分かれて行っていたんですが、最近は砂子、脇田、東、それから北側の小学校にも分かれて行くという感じで、砂子小に行く子どもたちが減ってきたという現状です。

会長

具体的に小学校との連携は何かやっていますか。

委員

砂子小学校と交流させてもらったり、砂子小の校庭を借りて遊ばせてもらったり、砂子小と脇田小で給食の交流をしたり、脇田小学校の5年生と交流をしたりと交流することが大事だと思っているので、交流の機会は持たせてもらっています。

会長

例えば四中校区に小中一貫校ができたときに、こども園も一緒についていくという可能性はあり得ないですか。縦のつながりの中で、幼・保だけでなく、低学年の子どもや、もっと大きい子とのつながりもできて活動が多様化するのではないかと思うんです。それともう一つが中1ギャップと言っていますが、もう一つの問題として小1プロブレムの問題があるので、そこを緩和していくということも含めて、幼・保と小学校の連携はこれから重要な課題のような気がするんです。

委員

そのような必要があるのであれば大事だとは思いますが、今そういうことは考えていなかったのです。

委員

以前、少しこの点について触れたんですが、門真は幼稚園、保育園の園区が決まっていなくて、色々なところからきているから、なかなか接続が難しいという話が出たかと思います。ただ、私は今おっしゃったように、今の学習指導要領で就学前が基盤となって学校教育につながりがあるということを文部科学省も大きく出している中で、小・中のつながりは話されているけれど、就学前からどうつながるのかという話題が出ていなくて、本来は一つのモデルを創る中で先を見たときに、そのあたりをしっかりと考えておくべきだと思います。

委員

私が今関わっている小学校がありますが、その学校も小学校の統合が行われたのですが、片方の学校に公立の幼稚園が入っていたんです。その関係で建て直して、幼小一貫教育で来年度4月からスタートします。小学校の敷地内に幼稚園が入ります。これも教育委員会や色々な人の夢だったわけですが、小中一貫教育の流れの中でなかなか幼小一貫が実現できませんでした。ですので、今会長がおっしゃったように、保・幼・小・中一貫教育、可能性としては面白いですよ。

委員

今の内容で、本当に具体的にもう一度考える必要があるんじゃないかと思います。その中でこれという内容をまとめて、教育委員会の意見も聞いて、そのような中で決めていけばいいのではないかと思います。

会長

このような議論をまた次回も続けていきながら、門真の本当に具体的な学校づくりをどう実現していくかということについて、さらに話を深めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

それでは今日はこれぐらいで終わりにします。最後に事務局お願いします。

事務局

ありがとうございます。今、会長の方からもご案内いただきました通り、次回第6回審議会につきましても、今日の話の続きのような形で、これからの学校づくりを具体的にどうしていくのかという議論を中心に進めたいと考えております。次回第6回につきましても、11月中の開催を予定しておりますが、現在最終日程調整中ですので、決定し次第改めて連絡いたしますのでよろしくお願いいたします。事務局からは以上です。

会長

小中一貫校ということがずっと話の底に基盤として存在していて、小中一貫校は、私自身は一体型が一番いいと思っていて、もっと違うやり方があって、それも効果があるということについて、委員に少しだけ次回お話しいただいてもいいですか。

委員

はい。

会長

では、今日はこれにて閉会したいと思います。ありがとうございました。

以上